

いたち川の小さな動物 —昆虫や貝など—

根来 尚・布村 昇

いたち川の中にも、昆虫や貝の仲間がいろいろいます。昆虫で、成虫も幼虫も水中ですぐすのはゲンゴロウなどの甲虫の仲間、幼虫が水中ですぐし、成虫になると空中に飛び出すのが、トンボやカゲロウ、カワゲラなどです。

カワニナなどの淡水にすむ貝やヒルの仲間、ワラジムシに近い仲間のミズムシも水草の間にすんでいます。

同じいたち川の中でも、場所により水質・流速・川底の様子などの違いによってそこにすむ種類や数が違ってきます。

いたち川の小動物の様子

最上流部の馬瀬口では、種類・個体数ともに他の調査地点より格段に多く、かつ大変きれいな流水のところに出現する、コガケロウの仲間やマダラカゲロウの仲間、カワゲラの仲間が多く見られました。より下流域では、そのような種がほとんど見られず、出現種数・個体数ともに下流に向かって減っていきま。高速道路南側と太田橋の2地点では、大変きれいな水質に住む種一種（ウルマーシマトビケラ）がみられましたが、より下流では見られず、また、雪見橋より下流では出現種数・個体数ともに少なくなります。

シマイシビルは、チスイビルとは違い、血を吸わず小昆虫を食べているヒルで、少し汚れた水に多くいる種類です。最上流部と下流部を除きいたち川全体に大変多くいます。流れが速しいたち川がこのシマイシビルに適しているのでしょう。

ミズムシもシマイシビルと同様に上流・中流で多くいますが、最上流部でもみることができます。



マダラカゲロウ類



ミズムシ



シマイシビル



カワニナ

水草につかまっていたり、転石の上を歩いています。中流の市街地の辰泉橋から雪見橋にかけて、カワニナ（ホタルの幼虫のえさになる巻貝）がよく目につきます。

十年前と変わったところ

上流から下流へいくにしたがって、種数・個体数が減り、きれいな水にすむ種が減るという傾向は、以前と同じです。しかし、特に上流の高速道路南側や太田橋の付近では、ヒラタカゲロウ類のようなきれいな流水に住む種が減り、少し汚れた水でも住めるトビイロトビケラなどが増えました。



ヒゲナガカワトビケラ



ヒラタカゲロウ類

また、ヒゲナガカワトビケラとヒラタドロムシが見られなくなったのは、以前はきれいであった石面や壁面がミズワタや泥で被われるようになったからと思われます。カワニナは中流部で以前より増えてきており、ウズムシ類（プラナリア）やスジエビやヌマエビも以前より多く見られるようになり、いたち川の小動物の住む環境は、より悪化している所もありますが、全体としては良くなっているように感じられます。

（昆虫担当ねごろ ひさし・無脊椎動物担当ぬのむら のぼる）